



市原市 観光振興ビジョン 《2022年度 改訂版》

誰もが訪れたいくなる おもてなしのまち いちはら

2017年度～2026年度



はじめに

市原市は、千葉県のほぼ中央に位置し、都心や羽田・成田両空港からいずれも1時間圏内でアクセスできる好立地に恵まれています。

北部地域には、日本有数の規模を誇る石油化学コンビナート群が立地する一方、南部地域には養老川の恵みがもたらすのどかな田園風景、そして先人達が古来より守り育んできた美しい里山の自然が広がり、一つの市の中で異なる顔をもっており、まさに「日本の縮図」のようなまちです。

そして、日本一の数を誇るゴルフ場や小湊鉄道のレトロな駅舎と房総里山トロッコ、地磁気逆転地層のチバニアン、「王賜」銘鉄剣をはじめとする歴史遺産などの数々の観光資源に加え、「市原歴史博物館」、「市原湖畔美術館」など多くの観光客を呼び込むための多彩なポテンシャルを有しております。

市では、これらの資源を最大限に活かし、いちはらの魅力を一人でも多くの人に感じてもらうため、平成29年3月に「市原市観光振興ビジョン」を策定いたしました。

その後、社会情勢の変化を踏まえ、令和2年3月に本ビジョンの改訂を行い、目標交流人口の達成に向け、ゴルフ場を活かした観光振興や、市原版DMOの創設、広域的な観光アライアンスなど、ビジョンの目標像である「誰もが訪れたいくなる おもてなしのまち いちはら」の実現に向け様々な施策を推進してまいりました。

今回（令和5年3月）の改訂では、令和2年から始まった新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い大きな影響を受けた本市観光産業を再び活性化させるため、これまでの取組の成果検証を踏まえた各施策の強化とともに、時代の潮流を的確に捉え、更にその先まで見据えたビジョンとしております。

今後、本格的な人口減少社会の到来や少子高齢社会が進展する中で、観光によるまちづくりは交流人口の拡大につながり、地域活性化や雇用の創出など、本市が目指す「まち・ひと・しごと創生」の実現に向けた重要な取組でありますので、国内はもとより世界に向けて本市の魅力を広く発信する積極的なプロモーションを行い、更なる交流人口の拡大に取り組んでまいります。

結びに、本ビジョンの改訂にあたり、貴重なご意見をいただきました関係者の方々から感謝を申し上げますとともに、今後とも一層の御協力を賜りますようお願い申し上げます。



2023年3月

市原市長 小出 譲治

目次

第1章 市原市観光振興ビジョン改訂の趣旨

1 市原市観光振興ビジョンの経緯.....	1
2 改訂の趣旨.....	1
3 改訂における基本的な考え方.....	1
4 指標の動向.....	2
5 社会経済情勢の変化・国の施策動向.....	2
6 ビジョンの位置づけと計画期間.....	5
7 計画の推進.....	6

第2章 観光の現状と課題

1 本市の観光を取り巻く環境.....	7
(1) 本市の現状.....	7
(2) 観光振興に向けた課題.....	10
2 国・県の動向.....	11
(1) 国の動向.....	11
(2) 県の動向.....	13

第3章 観光振興の基本的な考え方

1 目標像および目標値.....	14
2 策定の視点.....	15
3 観光振興に向けた5つの戦略と17のタスク.....	16

第4章 戦略ごとの方向性とタスク

戦略(1) 観光マーケティングに基づく効果的な誘客.....	18
戦略(2) 強みとなる観光資源のいちほらブランド化.....	20
戦略(3) 地域主体のおもてなしと滞在型コンテンツの創出支援.....	25
戦略(4) 様々なツールを活用したプロモーションの強化.....	28
戦略(5) 近隣自治体や観光関連団体等との連携.....	31

第5章 観光振興ビジョンの推進体制

観光振興ビジョンの推進体制.....	33
指標について.....	34

資料編 本市の観光資源.....	35
------------------	----

第1章 市原市観光振興ビジョン改訂の趣旨

1 市原市観光振興ビジョンの経緯

少子高齢化や観光を取り巻く環境の変化に対応し、持続的・安定的に交流人口を呼び込むため、2011年度を初年度とする「市原市観光振興ビジョン」を策定し、「誇りと愛着のもてる 地域が潤う 観光まちづくり」を基本理念として各種施策を実施してきました。

その後、アート×ミックスの開催や里山関係団体を中心に市民活動が活発化するとともに、小湊鉄道房総里山トロッコや市域を越えた広域連携により、新たな観光資源が生まれてきていることから、「市原市総合計画」の基本構想で掲げる『交流人口500万人』を目指し、本市の観光資源を最大限に活用して、地域振興と経済振興を図るための指針として、2017年に現行の「市原市観光振興ビジョン」を策定しました。

本ビジョンの計画期間は2017年度から2026年度までの10年間で、3年間を周期として見直しを図ることとしており、近年の「SDGs」「society5.0」「インバウンドの増加」といった社会情勢の変化等を踏まえ、2020年に「市原市観光振興ビジョン〈2020改訂版〉」を策定しました。

2 改訂の趣旨

「市原市観光振興ビジョン〈2020改訂版〉」の策定から3年間が経過し、新型コロナウイルス感染症の流行と感染拡大を防止するための経済活動の抑制による観光客の大幅な減少等、観光産業に大きな影響を与える中、インバウンドが期待された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が終了したこと等、本市観光を取り巻く環境に大きな変化がありました。

本ビジョンは社会経済情勢の変化に柔軟に適應するため3年間を周期として見直しを図ることとしており、本市の基本構想や本ビジョンの目標像の実現に向け、現状・課題を踏まえ、改めて観光振興ビジョンの改訂を行います。

3 改訂における基本的な考え方

(1) 目標像、目標値、策定の視点について

目標像「誰もが訪れたい おもてなしのまち いちはら」及び3つの策定の視点「観光地として選ばれる市原市」、「地域自ら稼ぐ力を持つ市原市」、「住んでよし、訪れてよしの市原市」については、本市の観光施策において普遍的なものであり、これに基づき2017年から各種事業を進めてきたこと、また、市原市総合計画の基本構想でも定めている目標交流人口は、人口減少社会

の中、地域外からの旅行者や短期滞在者による「交流人口」を増やすことが地域経済を活性化するために重要であり、総合計画の実現に向け引き続き取り組む必要があることから継続することとします。

(2) 戦略について

国は令和4年度版観光白書により、新型コロナウイルス感染症への新たな取組（マイクロツーリズムやワーケーションなど）や自然環境、文化、地場産業などの地域資源を保全しながら地域住民が観光の恩恵を感じられるよう、「住んでよし、訪れてよし」の「持続可能な観光地域づくり」を進めていくとしています。

これらの国の動向や社会情勢の変化を踏まえるとともに、「**交流人口・関係人口の増加による活力あるまちづくり**」と「**様々な資源を活かした稼ぐ地域観光地づくり**」という目的のもと、本市観光の課題を解消するため、現ビジョンの戦略を見直すとともに、具体的な取組について強化します。

4 指標の動向

・観光入込客数

基準値（2015年）352万人⇒（2021年）351万人⇒目標500万人

・小湊鉄道観光利用客数

基準値（2015年）4.1万人⇒（2021年）4.8万人⇒目標8万人

5 社会経済情勢の変化・国の施策動向

(1) 新型コロナウイルス感染症の影響

2020年1月に日本で初めて感染者が確認された新型コロナウイルス感染症は、2021年に入ってさらに感染が拡大し、本市でも2021年6月から8月にかけてまん延防止等重点措置、8月から9月末まで緊急事態宣言が発出され、一旦落ち着いたものの令和4年1月から3月まで再びまん延防止等重点措置が発出される事態となりました。新型コロナウイルス感染拡大や緊急事態宣言等の法的措置による行動制限は、日本経済全体に影響を及ぼしましたが、特に観光関連産業にはその影響が大きかったと考えられます。

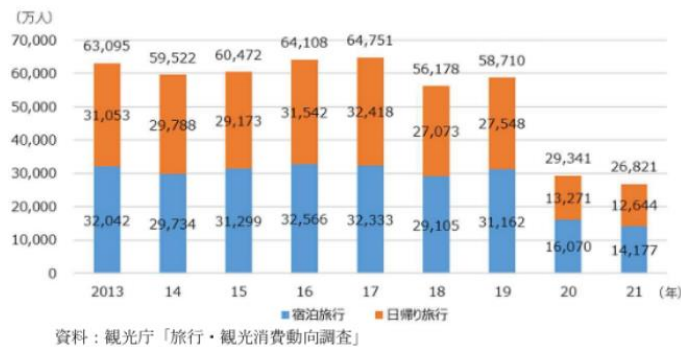
この影響により、旅行者は密となりやすい主要観光地や都市圏を避ける等、観光地選択が変化しており、近隣地域内での観光（いわゆるマイクロツーリズム）のトレンドは、引き続き進展しています。

また、密となる有名な観光地より自然環境に触れる旅行へのニーズが高まっているほか、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた地方志向の高まりやテレワークの普及により、ワーケーション※や第2のふるさとづくり（何度も地

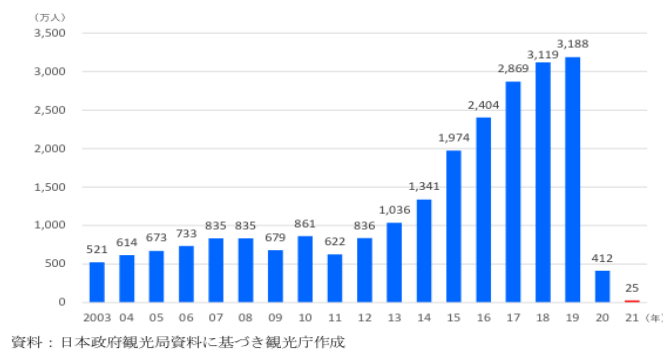
域に通う旅、帰る旅」といった新たな交流市場を開拓する取組みも推進されています。

※ワーケーション・・・Work（仕事）とVacation（休暇）を組み合わせた造語。テレワーク等を活用し、普段の職場や自宅とは異なる場所で仕事をしつつ、自分の時間も過ごすこと。

【日本人国内宿泊旅行延べ人数、国内日帰り旅行延べ人数の推移】



【訪日外国人旅行者の推移】



(2) SDGs、Society5.0等の社会経済情勢の変化

SDGsは、国連で定める持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための17の開発目標であり、この取組みにより、観光分野では、有形・無形文化遺産や自然環境に配慮しながら、地域の雇用や収入を生み出し、本市各地域の持続可能な発展のための推進力となることが期待されています。

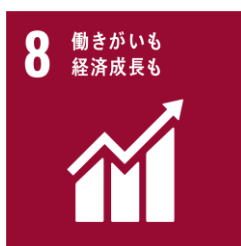
さらに、IoTやAIにより、新たな価値創造や必要な情報が必要な時に提供されるようになり、本市の観光資源と地域の人々と観光客を相互に結びつけることによって、観光まちづくりを推進します。

なぜ観光が重要なのか



出典：国連世界観光機関 (UNWTO) ©
出典：世界旅行ツーリズム協議会 (WTTTC)

■SDGsのうち主に観光に関連する目標のアイコン



(3) 地磁気逆転地層の GSSP 認定



市原市で初の国天然記念物に指定された田淵の地磁気逆転地層は、2020年1月17日に、世界で72カ所目の地質時代（地質年代ともいいます。）境界のGSSP (Global Boundary Stratotype Section and Point : 国際境界模式地) として認定されました。

当地は、約77万年前に地球のN極とS極が逆転したことを示す火山灰堆積物等が含まれている地層であり、前期 - 中期更新世境界のGSSPとして、地質時代の中期更新世（約77万4千年前～約12万9千年前）が、「千葉時代」を意味する「チバニアン (Chibanian)」と名付けられました。日本の地名が地質時代名称に初めてつけられたGSSPとして、「ジュラ紀」「白亜紀」等と同様に地球の地質時代の名称として使用されます。今後は、新たな地域資源・観光資源として積極的に活用していきます。

令和4年5月21日、チバニアンの地層(国指定天然記念物「養老川流域田淵の地磁気逆転地層」)にゴールドスパイクを設置し、記念式典を開催しました。GSSPとなったポイントには、「ゴールドスパイク」と呼ばれる金色の鉾やモニュメント等が設置されることが慣例となっています。

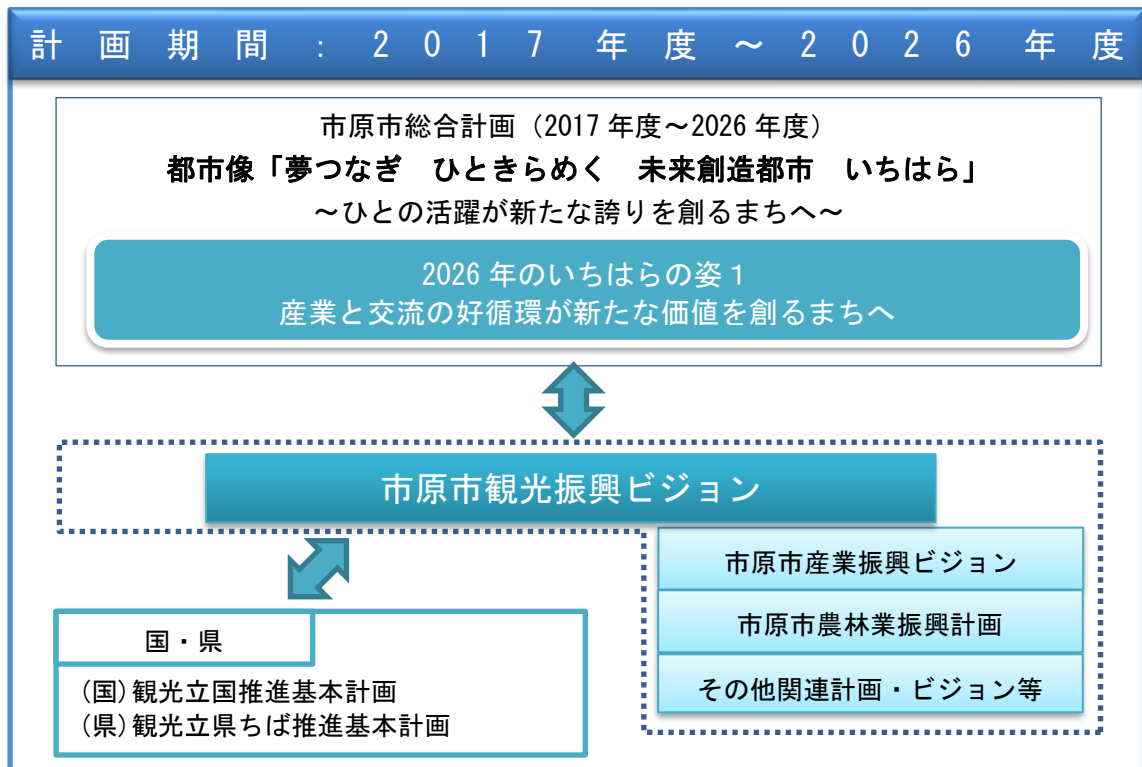


(ゴールドスパイクが設置されたチバニアンの地層)

6 ビジョンの位置づけと計画期間

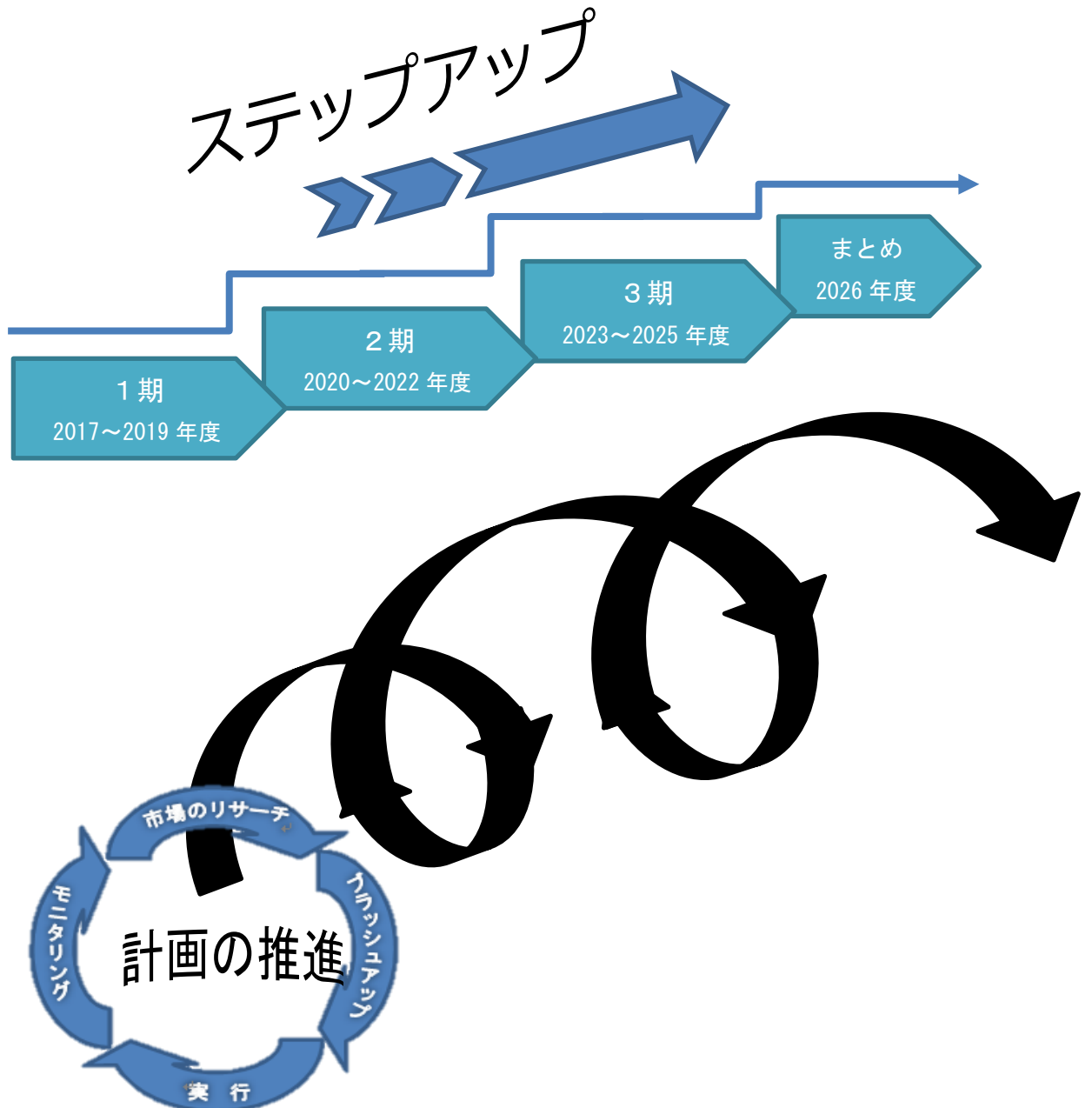
「市原市観光振興ビジョン」は、「市原市総合計画」の個別計画とし、計画期間は2017年度から2026年度までの10年間です。

また、「市原市産業振興ビジョン」、「市原市農林業振興計画」等の関連する市の計画と連携を図るとともに、国の「観光立国推進基本計画」や千葉県の「観光立県ちば推進基本計画」等と整合を図っています。



7 計画の推進

本ビジョンの計画期間である10年の間には、東京2020オリンピック・パラリンピックがあり、この前後では観光を取り巻く環境も大きく変化することが予想されます。これらに対応するために、3年間を周期として、適宜見直しを図り、実効性を確保します。



第2章 観光の現状と課題

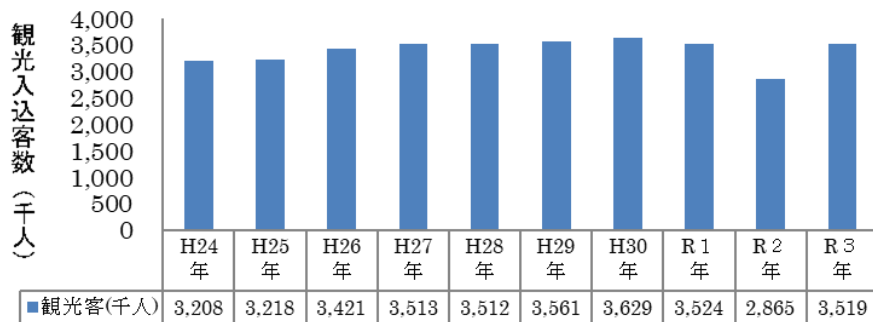
1 本市の観光を取り巻く環境

(1) 本市の現状

■観光入込客数の動向

本市の観光入込客数は、令和元年まで 300 万人から 400 万人の間で推移しています。平成 30 年に 363 万人を記録しましたが、令和元年の台風等の災害により 352 万人に減少し、更に新型コロナウイルス感染症拡大により令和 2 年は 287 万人まで落ち込みました。令和 3 年度は、令和 2 年度に比べて新型コロナウイルス感染症の影響が少なかったことから 351 万人まで回復しました。観光入込客数の上位は「ゴルフ場」、「養老渓谷」、「上総更級公園」、「道の駅あずの里いちはら」、「千葉こどもの国キッズダム」の順になっています。

【観光入込客数】



出典)「産業白書」(令和4年版)

◇主な社会経済情勢

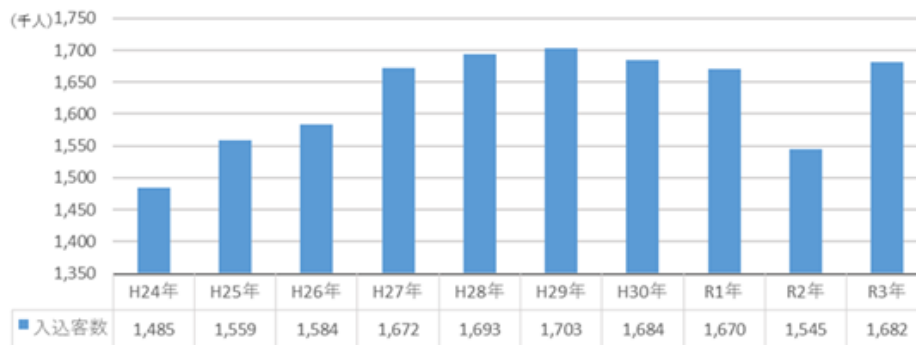
平成 21 年	8 月	アクアライン料金引き下げ社会実験開始
平成 23 年	3 月	東日本大震災
平成 25 年	4 月	圏央道市原鶴舞インターチェンジ開通 市原鶴舞バスターミナル開設
平成 30 年	10 月	市原市の「養老川流域田淵の地磁気逆転地層」が国の天然記念物に指定
令和元年	9~10 月	令和元年房総半島台風等による災害
令和 2 年	1 月	市原市の「養老川流域田淵の地磁気逆転地層」が GSSP(国際境界模式地)に認定
令和 2 年	1 月	新型コロナウイルス感染症の流行

■ゴルフ場の利用者数の推移

本市のゴルフ場利用者数は、150～160万人で推移していましたが、東日本大震災の影響により平成23年に減少しました。その後は全国的にゴルフ人口が減少する一方で増加を続け、ピークの平成29年には170万人となりましたが、猛暑や降雪、台風等の災害、新型コロナウイルス感染症拡大により令和2年には154万人まで減少しました。令和3年は利用者が増加していますが、これは新型コロナウイルス感染症拡大等の影響下において、屋外で『3密』を避けられるスポーツとして注目を集めたこと等によるものと考えられます。

【ゴルフ場利用者数】

(千人)

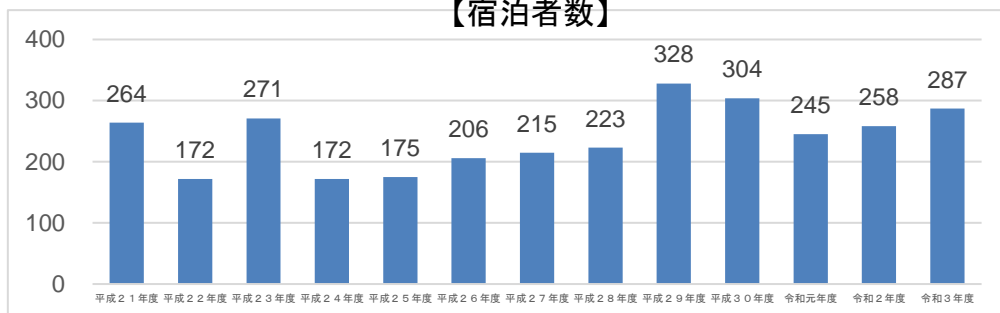


出典)「産業白書」(令和4年版)

■宿泊者数の推移

宿泊者数は、平成19年度以降減少傾向にありましたが、平成23年度に急増しました。これは、東日本大震災の復興に向け、臨海部の工場に市外から労働者が流入し、本市北部の宿泊施設に滞在したためと考えられます。その後、一旦減少したものの、観光客やゴルフ場の利用者増に併せ増加傾向にありました。近年は新型コロナウイルス感染症の影響で減少したものの再度増加傾向にあります。

【宿泊者数】



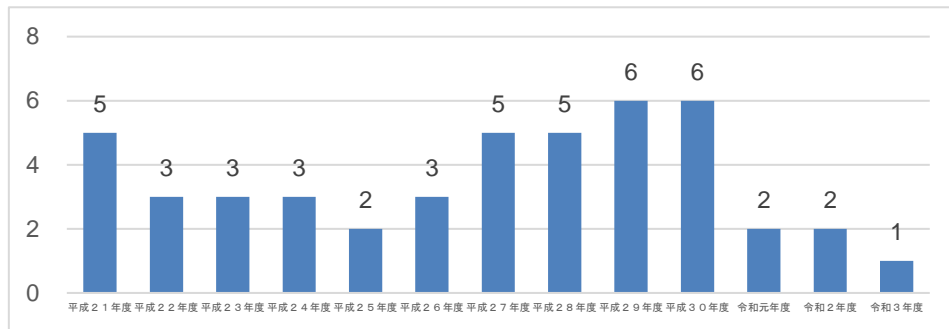
出典)「産業白書」(令和4年版)

■外国人宿泊者数の推移

外国人宿泊者数は、中国のビザ発給要件の緩和により、中国からの旅行者が増加したことにより平成 30 年度まで増加傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症等の影響で海外への渡航が制限されたことから令和元年度から大幅に減少しています。

【外国人宿泊者数】

(千人泊)



出典)「産業白書」(令和 4 年版)

◇主な社会経済情勢(海外)

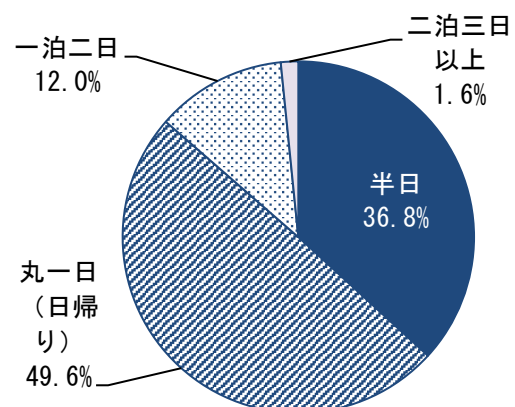
平成 25 年	7 月	マレーシア、タイの短期滞在ビザ免除
平成 26 年	9 月	インドネシア、フィリピン、ベトナムのビザ発給要件を緩和
平成 27 年	1 月	中国のビザ発給要件を緩和
平成 28 年		ビザの緩和、消費税免税制度の拡充
平成 29 年		LCC 拡大、円安の進行
令和 2 年	1 月	新型コロナウイルス感染症の流行

■旅行者の滞在時間

滞在時間は、「丸一日(日帰り)」が 49.6%と最も多く、次いで「半日」が 36.8%となっていて、この両者で 86.4%を占めています。

一方、1泊以上の宿泊を伴う滞在は 13.6%にとどまり、本市の特徴として、日帰り旅行者が多いことが分かります。

【旅行者の滞在時間】



出典)「地方版総合戦略 アンケート及び調査報告書」
(2016年[平成 28年]市原市)

(2) 観光振興に向けた課題

本市では「市原市観光振興ビジョン」(2017年度～2026年度)に基づき、様々な取組みを行ってきました。この間に取り組んできた成果や観光を取り巻く社会状況の変化、本市の特色と可能性を踏まえ、今後の観光振興に向けた課題を以下のとおり整理しました。

① 観光施策に関するデータ収集

観光客を集めるためには確固たる集客戦略が必須ですが、集客ターゲットを明確にするため、観光に係る詳細な数値データ(地域ごと、年齢ごと、性別ごと等)が必要です。

② 新型コロナウイルス感染症への取組み

新型コロナウイルス感染症により減少した観光客に対するウィズコロナ・アフターコロナの取組み(マイクロツーリズム等)の検討が必要です。

③ 観光資源の連携

本市には様々な観光資源があるものの、観光拠点どうしの結びつきが弱く、現在は個別に存在していることから、それぞれが密接に連携し一体となって取り組む必要があります。

④ 新たな観光資源の活用

新たな観光資源(令和4年11月にオープンした市原歴史博物館、ゴールデンスパイクが設置されたチバニアン在地層)等を活用した観光振興策の検討が必要です。

⑤ 滞在型観光への移行の検討

本市の観光の特徴である滞在時間の短い日帰り旅行から滞在型観光への移行の検討が必要です。

⑥ 関係人口を増やす施策

観光を入口として、その地域の担い手として活躍することにとどまらず、地域住民との交流がイノベーションや新たな価値を生み、将来的な移住者の増加にもつながることが期待される関係人口を増やす施策が必要です。

⑦ 観光人材の育成・確保

観光を担う人材(地域住民・観光事業者等)の育成・確保が進んでいないことから、人材育成・確保の取組みが必要です。

⑧ 市・観光協会・DMOの役割の明確化

令和4年10月に市原DMOが登録観光地域づくり法人として国土交通省に登録されましたが、さらなる交流人口増加に向け効果的な観光施策に取り組むため、市・観光協会・DMOのそれぞれの役割・在り方について明確にすることが必要です。

2 国・県の動向

(1) 国の動向

■「観光庁ビジョン」(観光庁)

観光庁では、「住んでよし、訪れてよしの国づくり」に取り組み、観光立国の実現を目指し、各自治体の観光地域づくりを推進しています。

観光関係者だけでなく、民間事業者、地域住民等が連携し、地域資源を観光資源として最大限に活用した観光地域づくりを推進することで地域住民が自分の地域に誇りと愛着を持ち、さらに、訪れた観光客もその地域に魅力を感じ、地域住民と観光客の相互作用による観光を通じた地域の活性化へとつながります。

■「観光ビジョン実現プログラム 2020」

(2020年7月 観光立国推進閣僚会議)

1. 国内の観光需要の回復と観光関連産業の体質強化

新型コロナウイルス感染症の影響により、観光需要が大幅に減少し、観光関連産業に深刻な影響が生じています。

このため、まずは雇用の維持・事業の継続の支援に注力するとともに、反転攻勢に転じるための基盤を整備し、感染の状況等を見極めつつ、強力な国内需要の喚起策を講じ、国内観光の回復を図ります。

その上で、国・地域ごとの感染収束を見極め、誘客可能となった国等からインバウンドの回復を図ります。

2. インバウンド促進に向け引き続き取り組む施策

国内外の感染症の状況を十分に見極めつつ、インバウンドの再開に備え、これまで進めてきた受入環境整備や新たなコンテンツづくりに引き続き戦略的に取り組みます。

■ 「日本版DMO」 (2019年8月7日 観光庁)

2014年12月に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、各地域が魅力ある観光地域づくりを自律的・継続的に実施していくためには、複数の主体の合意形成を行い、戦略的なマーケティング、効率的な事業を継続的に推進する主体として、「日本版DMO」が必要であるとしています。地方創生の深化のために、魅力ある観光地域づくりを行う事業推進主体として重要な役割が期待されています。



(2) 県の動向

■「観光立県ちば推進基本計画」

千葉県は、観光立県千葉の実現に向け、2018年度に策定した「第3次観光立県ちば推進基本計画」の中で「繰り返し選ばれる国際観光県CHIBA」を目指すべき姿として掲げています。

この計画は、これらの社会情勢の変化や国の動向等を踏まえ、また、訪日外国人の増加や東京2020オリンピック・パラリンピックの開催等の機会を捉えた上で、首都圏に近接する立地優位性等の本県の強みを最大限に生かし、国内外からの来訪者を増やし、旅行消費額を高め、本県経済を支える観光の振興を図るための施策をとりまとめたものです。

また、本県の地域特性の多様性に鑑み、第2次基本計画の地域区分に基づき、県内を6つの地域（「ベイエリア」、「東葛飾」、「北総」、「九十九里」、「南房総」、「かずさ・臨海」）に分けて、各地域における観光を取り巻く環境変化と課題を分析しています。

（市原市は、「かずさ・臨海」地域に属しています。）

かずさ・臨海地域（市原市・袖ヶ浦市・木更津市・君津市・富津市）の観光を取り巻く環境変化と課題

○主な環境変化

市原市では、市原市内陸部の地磁気逆転地層が、国際学会において地質年代区分境界の標準模式地への認定審査が進められています。この地層は、平成30年10月、国の天然記念物に指定されました。

かずさ・臨海地域の観光入込客数は、平成24年から29年の5年で34万人（1.2%）の微増に留まっています。

同地域の宿泊客数は、5年で36万人（47.5%）増加しており、うち、市原市は14万人（74.8%）の増加となっています。

課題

公共交通機関の利便性が低く、さらに二次交通が不十分な状況です。

観光施設・店舗等における多言語対応等、外国人観光客の受入体制を強化する必要があります。土日休日の午後を中心として、都心に向かうアクアラインにおいて慢性的な渋滞が発生していることから、渋滞のピークを避けるための取組み等、渋滞への対応が課題となっています。

第3章 観光振興の基本的な考え方

1 目標像および目標値

(1) 目標像

「誰もが 訪れたいくなる
おもてなしのまち いちはら」

市原市には、地域の人たちによって守り、育まれてきた「世界に一番近いSATOYAMA」があります。

そこは、豊かな自然が広がり、悠久の歴史、日本一の数を誇るゴルフ場、ローカル線の小湊鉄道等の魅力があふれているまちです。

また、ふるさとをこよなく愛し、おもてなしの心を持った多くの人たちが暮らしています。

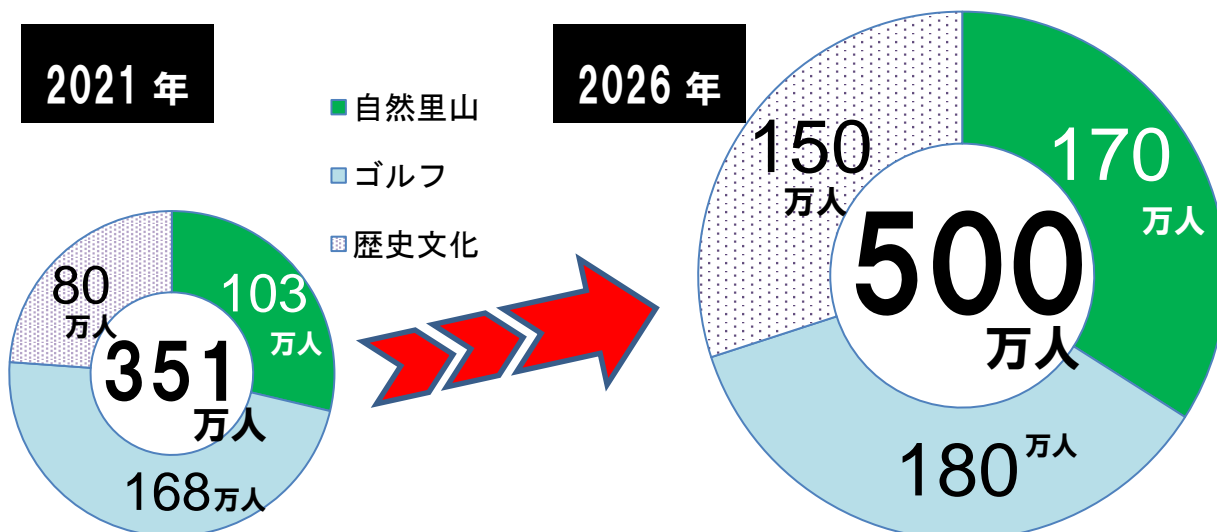
この魅力を一人でも多くの人に感じてもらい、誰もが「訪れたい、また来たい」と思う観光のまちの実現を目指していきます。

(2) 目標値

市原市観光振興ビジョンへの取組みに対する目標や方向性をより明確にするため、ビジョンの達成状況を客観的に評価できる目標値を設定します。

	現 状 2021年	目 標 値 2026年
観光入込客数	351 万人/年	500 万人/年

※把握方法：観光入込客数調査



2 策定の視点

本市の観光振興における目標像と目標値を達成するため、以下の3つを本ビジョン策定の視点とします。

「観光地として選ばれる市原市」

本市の観光資源を活用した魅力的なメニューをつくり、積極的なプロモーションを行うことにより、観光の目的地として選ばれることを目指します。

また、訪れた観光客の満足度を高めるため、郷土に愛着を持って暮らす人たちが、様々なおもてなしの取組みを行い、観光地としてのレベルアップに取り組めます。

「地域自ら稼ぐ力を持つ市原市」

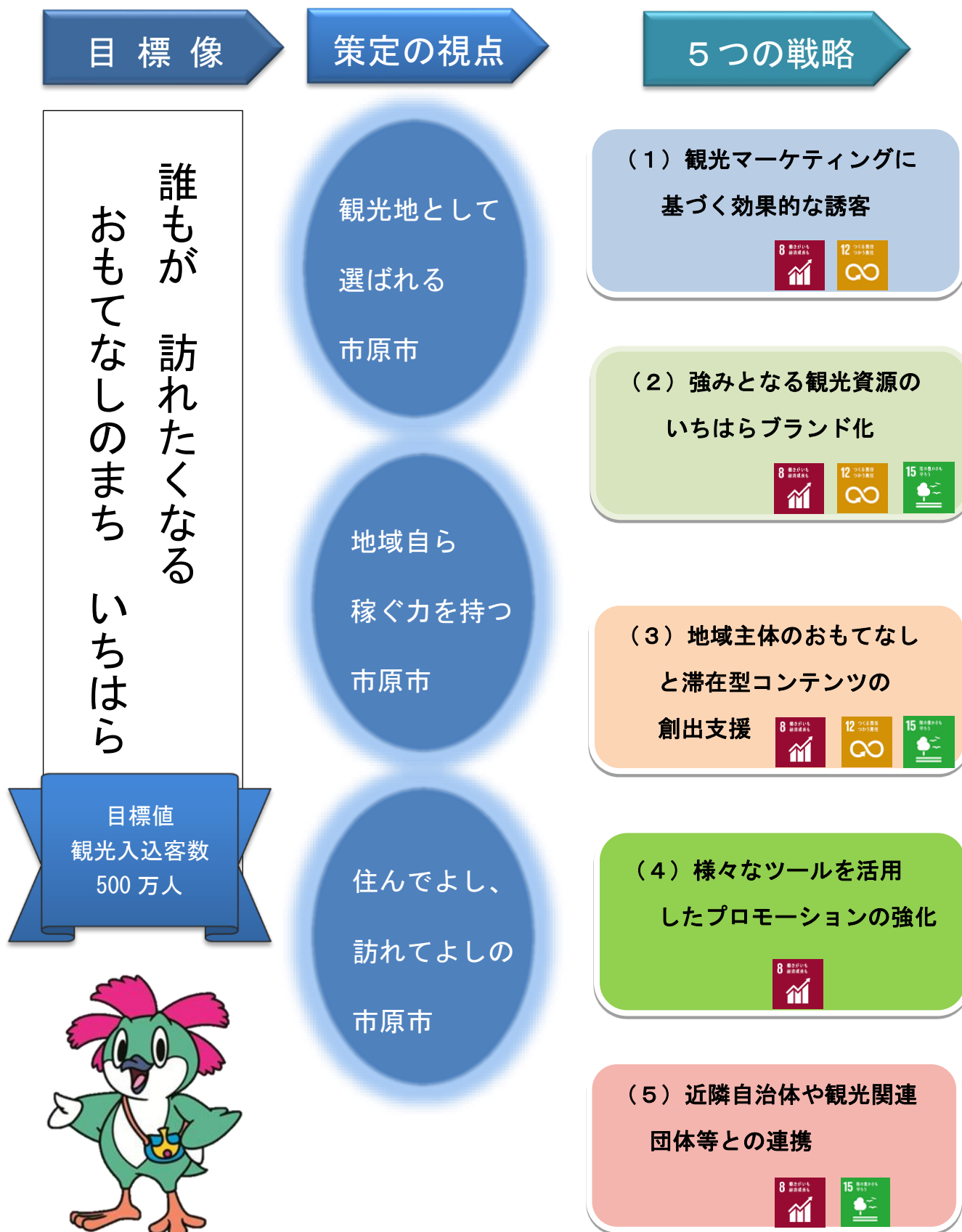
広域連携や観光産業等との連携により、市原でしか体験できない観光メニューを充実させ、周遊観光による滞在時間を延ばします。

また、市原ならではの土産品や郷土料理等の提供を行い、地域経済の活性化につなげます。

「住んでよし、訪れてよしの市原市」

本市を訪れた人たちが、郷土に愛着を持って暮らす人たちによる心からのおもてなしを通じて、その地域に魅力を感じるといった、地域住民との交流から、いずれ定住を考えるようなきっかけづくりを行います。

3 観光振興に向けた5つの戦略と17のタスク



戦略を達成するための17のタスク

① 本市入込客の詳細な分析とニーズ把握

② 個々の観光資源を複合的に活用するエリア化（高滝地区・養老溪谷地区）

③ 養老溪谷（世界に一番近いSATOYAMA）・高滝・小湊鉄道の魅力の更なる磨き上げ

④ 日本一の数を誇る市内全33箇所のゴルフ場を活かした「ゴルフの街いちはら」の推進

⑤ 上総いちはら国府祭りの実施によるシビックプライドの醸成

⑥ スポレクパークや加茂運動広場等を活用した合宿誘致を行うスポーツツーリズムの推進

⑦ 市原湖畔美術館やアート×ミックス、アーティスト・イン・レジデンスなどによる「アートのまち いちはら」の推進

⑧ 観光客のニーズを踏まえた新たな観光資源の発掘

⑨ 里山での暮らし体験などのメニューの創出支援

⑩ 自然との触れ合いや農業体験など子どもたちが学校で学ぶことのできない体験メニューの創出支援

⑪ 観光に関わる人材の確保・育成

⑫ ターゲットを明確にした効果的なプロモーション（ファミリー層、カップル層、学生層、シニア層、訪日外国人等）

⑬ ニーズを踏まえた親和性の高い観光資源ごとのテーマ化

⑭ 歴史資源のストーリー化や里山体験・交流の映像化

⑮ 中房総観光推進ネットワーク協議会や3市町連携事業（君津市・大多喜町）などの観光資源を活かした自治体間連携

⑯ 観光協会（市原DMO）を中心とした観光事業者、地域活動団体との連携による稼げる地域観光づくり

⑰ 産・官・学連携による南いちはらの活性化

第4章 戦略ごとの方向性とタスク

戦略(1) 観光マーケティングに基づく効果的な誘客

本市の豊富な観光資源を効果的に活用するためには、どのような属性の人がその観光地を訪れるのか、こういった行動パターンがあるのか等、具体的な数値を裏付けとしたマーケティングに基づく確固たる集客戦略が必要です。より多くの人に訪れてもらえるよう、詳細な情報を改めて収集し、これらのデータに基づく本市観光の強み・弱みを再検証し、強みを踏まえた独自の施策を行う等、観光資源の魅力を最大限発揮する新たな観光施策を推進します。

評価指標

■ 人流調査の結果を踏まえ、新たに民間事業者と連携して事業を実施した数
(累計) 2021年 0件 ⇒ 2026年 5件

【タスク】

① 本市入込客の詳細な分析とニーズ把握

ビッグデータ等を用いた人流調査を行い、本市に訪れる観光客の属性や行動パターンを把握し分析することで、本市の強みを活かした観光施策の企画やモデルコースの設定、ターゲットを絞った効果的なプロモーションを行うとともに、テレワークを活用したワーケーション等、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた新たな観光施策に活用します。

【主な事業】

- * 観光地人流調査事業
- * 移住定住等コミュニケーション事業
- * 里山ワーク推進事業
- * 観光客動向調査<<観光協会>>



(テレワーク拠点としての活用を期待する「高滝湖コーポレートオフィス」)

② 個々の観光資源を複合的に活用するエリア化（高滝地区・養老溪谷地区）

地理的に近い範囲をエリア化し、モデルコースを設定する等、当該エリアの観光施設が互いに連携し誘客することで、エリア内の様々な観光資源を周遊してもらえるような施策に取り組みます。特に高滝地区や養老溪谷地区については重点地区として、高滝湖企業連携プロジェクトや養老溪谷観光推進協議会等を中心とした当該地区の活性化に取り組みます。

【主な事業】

- * 高滝湖企業連携プロジェクト事業<<DMO>>
- * 養老溪谷観光ガイド運営事業<<観光協会>>
- * 誘客イベント開催事業<<観光協会>>



（高滝湖周辺エリアを紹介する、「LAKE TAKATAKI MAP」）

戦略(2) 強みとなる観光資源のいちはらブランド化

本市には養老溪谷や小湊鉄道、日本一の数を誇る市内全 33 箇所のゴルフ場等の様々な観光資源があるものの、その他に点在する観光資源との結びつきが弱い状況です。本市の強みとなる様々な観光資源の価値やイメージを高め、それぞれを密接に結びつけ、他にない「いちはらブランド」を創り上げ、地域全体でこの「いちはらブランド」を盛り上げる意識を醸成することで、観光客から市原市に「また来たい」と思ってもらえる地域づくりを行います。

評価指標

■ ゴルフ場利用者数	2021 年	168 万人/年	⇒	2026 年	180 万人/年
■ スポーツ合宿誘致数	2021 年度	8 件	⇒	2026 年度	10 件
■ 市原湖畔美術館来館者数	2021 年	2.8 万人/年	⇒	2026 年	3.2 万人/年

【タスク】

③ 養老溪谷（世界に一番近い SATOYAMA）・高滝・小湊鉄道の魅力の更なる磨き上げ

里山の有する四季折々の風景を活かした小湊鉄道沿線の景観整備、観光トイレや駐車場、Wi-Fi 等の環境整備や地域おこし協力隊との協働による観光客のニーズを踏まえた自然とふれあう体験型メニューの創出等に取り組むとともに、里山を活かした食等の新たな魅力の発掘に取り組めます。

【主な事業】

- * 花プロジェクト事業
- * 観光地おもてなし事業
- * 地域資源を活かした観光振興事業
- * 観光施設管理事業
- * 観光施設整備事業
- * 観光地美化事業<<観光協会>>



(花プロジェクト)



(菜の花と小湊鉄道の房総里山トロッコ)

④ 日本一の数を誇る市内全 33 箇所のゴルフ場を活かした「ゴルフの街いち
はら」の推進

日本一の数のゴルフ場がある強みを活かして、ゴルフ場関係者の協力のもと、ジュニアゴルファーの育成環境を整備し、シンボリックなジュニア大会を開催する等「ゴルフの街いちはら」を推進することでゴルフプレイヤーの増加につなげるとともに、ゴルフ場を活用した特産品の販路の拡大を図り、地域経済の活性化に向けて取り組めます。

【主な事業】

- *ゴルフの街いちはら事業
- *ゴルフ誘客事業《DMO》



(小学生ゴルフ体験)

⑤ 上総いちほら国府祭りの実施によるシビックプライドの醸成

上総いちほら国府祭りを通して、市内外から多くの方々を誘客することで賑わいを創出し、歴史や文化に根ざしたふるさと市原の魅力を市内外に発信します。

また、若い世代のシビックプライドの醸成に繋げ、若い世代の参加者を増やすために、ワークショップを開催し国府祭りのイベント内容に若者や子育て世代等の意見を積極的に取り入れます。

【主な事業】

*上総いちほら国府祭り実施事業



(上総いちほら国府祭り 練り踊り)

⑥ スポレクパークや加茂運動広場等を活用した合宿誘致を行うスポーツツーリズムの推進

国際大会を通じ評価の高まったスポレクパーク等の本市のスポーツ施設を活用したスポーツ大会やスポーツ合宿の誘致を推進するため、スポーツ合宿を優先とした施設の確保や合宿受付窓口の一本化に取り組みます。

また、サイクリング等のスポーツイベントを開催する等、スポーツを活用した地域の活性化に取り組みます。

【主な事業】

- * スポーツ合宿・大会誘致事業<<DMO>>
- * いちはらの環境を活かしたスポーツ推進事業費
- * 高滝湖マラソン大会実施事業



(スポーツ合宿 スポレクパーク)

⑦ 市原湖畔美術館やアート×ミックス、アーティスト・イン・レジデンス等による「アートのまち いちはら」の推進

「アートのまち いちはら」を推進するため、南いちはらの観光の中核施設である市原湖畔美術館を活用するとともに、これまでの開催により蓄積されたアート×ミックスのレガシーを活かした新たな芸術祭の開催や牛久商店街や月出工舎で実施しているアーティスト・イン・レジデンスを推進することで、訪れたい、関わりたいアートのみちづくりに取り組みます。

【主な事業】

- * 水と彫刻の丘事業
- * 百年後芸術祭-内房総アートフェス- (仮称)
- * コミュニティアートを通じたまちづくりの推進事業



(房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス 2020+ 木村崇人《森ラジオ ステーション×森遊会》撮影：中村脩)

⑧ 観光客のニーズを踏まえた新たな観光資源の発掘

観光フォトコンテスト等の開催により、まだ認知されていない景色やイベント等、人流調査の結果や観光客のニーズを踏まえた新たな観光資源の発掘を行うとともに、本市ならではの新たな食やお土産品の開発等に取り組みます。

【主な事業】

- * 市原市の特産品等の発掘及び開発支援事業《DMO》
- * 観光写真コンクール事業《観光協会》
- * 観光資源の調査事業《観光協会》



ふるさと名物応援宣言ロゴ



いちほら国府ブランドロゴ

戦略(3) 地域主体のおもてなしと滞在型コンテンツの創出支援

本市を訪れる観光客の特徴は、特定の地域に留まることなく観光名所をスポットで巡るような地域への経済波及効果が低い「通過型観光」※となっています。経済波及効果の高い「滞在型観光」※に向けて、地域の方と連携し本市を訪れる観光客をおもてなしの心をもって迎え入れるとともに、里山等での体験や住民との交流を通じた新たなコンテンツの創出を支援することで、リピーターとして何度も訪れてくれる「いちほらファン」を増やし、交流人口や関係人口の増加へつなげていきます。

※「通過型観光」・・・観光バスツアーのようにある地域に留まることなく観光名所をスポットで巡るような観光スタイル。

※「滞在型観光」・・・一箇所あるいは一定の地域に宿泊し、体験型レジャー等を楽しむような観光スタイル。

評価指標

■ 里山等での体験メニュー数	2021年度	10件	⇒	2026年度	20件
■ 観光業界に関する職場体験数	2021年度	8件	⇒	2026年度	20件

【タスク】

⑨ 里山での暮らし体験等のメニューの創出支援

里山の中にある古民家等に泊まり、里山に移住した方や、地元で家業を継がれている方、多様な暮らし方を実践されている方々に出会い、里山保全活動等を通じた交流プログラムを体験し滞在できるメニューの創出支援に取り組むとともに、里山保全活動等を通じた関係人口の創出に取り組みます。

【主な事業】

- *花プロジェクト事業【再掲】
- *観光地おもてなし事業【再掲】
- *移住定住等コミュニケーション事業【再掲】
- *里山ワーク推進事業【再掲】



(里山保全活動)

⑩ 自然との触れ合いや農業体験等の子どもたちが学校で学ぶことのできない体験メニューの創出支援

小中学生を対象とした体験型教育旅行を念頭に、農作業の体験や地元ならではの食事を提供するコンテンツの創出を支援することで、都心の子どもたちに里山の魅力を伝えるとともに、地元の農業等の地域産業の活性化に取り組みます。

【主な事業】

*里山・農業支援対策事業<<DMO>>

*「クオードの森」連携事業<<DMO>>

*教育旅行（日帰り課外授業、修学旅行等）の誘客事業<<DMO>>



(農作業体験)



(加茂菜漬け体験)

⑪ 観光に関わる人材の確保・育成

地域の観光を担う人材の高齢化等による観光業界の人材不足に対し、観光に関心を持つ若い人材の育成を行うため、高校や大学と連携したインターンシップの支援を行うとともに、稼げる地域観光づくりを行う観光マネジメント人材の育成を行い、本市を訪れる観光客をおもてなしの心をもって迎え入れる人材の確保に取り組みます。

【主な事業】

- * 高校3年生向けゴルフ場職場見学事業
- * 市原市ゴルフ場インターンシップ事業
- * 養老溪谷観光ガイド運営事業<<観光協会>> 【再掲】
- * チバニアンガイド等総合支援事業<<DMO>>



(高校生ゴルフ場職場見学)



(養老溪谷観光ガイド)

戦略(4)様々なツールを活用したプロモーションの強化

多くの観光客を誘客するため、ファミリー層、カップル層、学生層、シニア層、訪日外国人等観光客のターゲットを明確に定め、本市の観光資源と親和性の高い層に対し、観光資源のストーリー化や体験の映像化、SNS や雑誌等の様々な媒体の活用、イベントの実施等により、多くの観光客の関心・関与を高め、「いちにはらファン」の増加につながる積極的なプロモーションに取り組みます。

評価指標

- 小湊鉄道及び養老溪谷のSNS (Twitter・Facebook・Instagram) 投稿数
2021年度 35,978件 ⇒ 2026年度 40,000件
- 教育旅行誘致数(学校数)(累計)
2021年度 0校 ⇒ 2026年 10校

【タスク】

- ⑫ ターゲットを明確にした効果的なプロモーション(ファミリー層、カップル層、学生層、シニア層、訪日外国人等)

戦略(1)～(3)のタスクやその進捗も踏まえつつ、インフルエンサーを活用したSNSによる情報配信やマスコミの活用等、本市に訪れる観光客の属性に特に効果的な手法を活用することで、多くの観光客の関心・関与を高める戦略的かつ積極的なプロモーションに取り組みます。

【主な事業】

- * 地域資源を活かした観光振興事業【再掲】
- * 観光情報発信事業
- * 観光大使・ふるさと応援団事業
- * 観光プロモーション事業
- * 観光情報等の広報宣伝事業<<観光協会>>



(観光ガイドブック)



(インフルエンサーのインスタグラム)

⑬ ニーズを踏まえた親和性の高い観光資源ごとのテーマ化

⑫のプロモーションを更に効果的に行うため、里山を活用したグリーンツーリズム、アートを活用したアートツーリズム、スポーツ大会や合宿誘致、サイクリング等を活用したスポーツツーリズム等、本市の観光資源で親和性の高いものごとのテーマ化に取り組みます。

【主な事業】

- *アートを活用した観光地づくり事業
- *スポーツ合宿・大会誘致事業<<DMO>>【再掲】
- *里山・農業支援対策事業<<DMO>>【再掲】
- *サイクルツーリズム推進事業<<観光協会>>【再掲】



(サイクルツーリズム推進事業)

⑭ 歴史資源のストーリー化や里山体験・交流の映像化

市原歴史博物館やゴールデンスパイクが設置されたチバニ안의地層、更級日記千年紀等の悠久の歴史を積み重ねてきた本市の豊富な歴史資源をストーリー化するとともに、「世界に一番近いSATOYAMA」ブランドの魅力を向上させるため里山での体験型コンテンツ等の映像化に取り組みます。また、歴史資源や里山体験等の教育コンテンツを集めたモデルコースを教育旅行として企画し、市内の学校だけでなく、市外の小中学校を対象としたプロモーションに取り組みます。

【主な事業】

- *チバニアンガイド等総合支援事業<<DMO>>
- *観光情報等の広報宣伝事業<<観光協会>>【再掲】
- *上総国分尼寺コンサート&ライトアップ事業<<観光協会>>
- *更級日記千年紀周知事業<<観光協会>>
- *教育旅行（日帰り課外授業、修学旅行等）の誘客事業<<DMO>>【再掲】



（市原歴史博物館）



（上総国分寺尼寺）

戦略(5) 近隣自治体や観光関連団体等との連携

国内外での観光地間競争が激化する中、本市独自の観光施策のみではなく、地理的に近い観光エリア間での連携により、観光資源を相互に結びつけることで、里山等の様々な観光資源のポテンシャルを最大限発揮することができるとともに、エリア内を周遊してもらうことで、エリア全体の経済波及効果を高めることにつながっていきます。また、市だけでなく、観光協会（DMO）や観光事業者、地域活動団体等、様々な関係者と一体となって取り組むことで、活力ある稼ぐ地域観光地づくりを推進します。

評価指標

■ 自治体間連携により実施したイベント数（累計）	2021年度	0件	⇒	2026年度	3件
■ 超小型EVの利用者数	2021年度	120件	⇒	2026年度	180件

【タスク】

- ⑮ 中房総観光推進ネットワーク協議会や3市町連携事業（君津市・大多喜町）等の観光資源を活かした自治体間連携

中房総観光推進ネットワーク協議会や養老溪谷を中心とした君津市・大多喜町との里山を活用したプロモーション、新たな芸術祭における自治体間連携等、地理的に近い観光地間の連携により、それぞれの観光資源を相互に結びつけることで、個々の資源の魅力を高めるよう取り組みます。

【主な事業】

- * 広域等連携観光推進事業
- * 地域資源を活かした観光振興事業【再掲】
- * 百年後芸術祭-内房総アートフェス-（仮称）【再掲】



（中房総観光推進ネットワーク協議会 海ほたる（早春）観光キャンペーン）

⑩ 観光協会（市原 DMO）を中心とした観光事業者、地域活動団体との連携による稼げる地域観光づくり

市は観光事業者や地域活動団体等の多様な関係者と協働しながら、地域への誇りと愛着を醸成する視点に立った観光地域づくりの中心となる観光協会（市原 DMO）とともに稼げる地域観光づくりに取り組みます。

【主な事業】

- * 市原市観光協会補助事業
- * 市原版 DMO 推進事業
- * 観光地おもてなし事業【再掲】

⑪ 産・官・学連携による南いちはらの活性化

超小型 EV を活用したカーシェアリングや新たな観光コンテンツの創出、イベント企画やプロモーション等について、企業や大学と連携した南いちはらの活性化に取り組みます。

【主な事業】

- * 地域資源を活かした観光振興事業【再掲】
- * 新規マーケット導入事業<<DMO>>

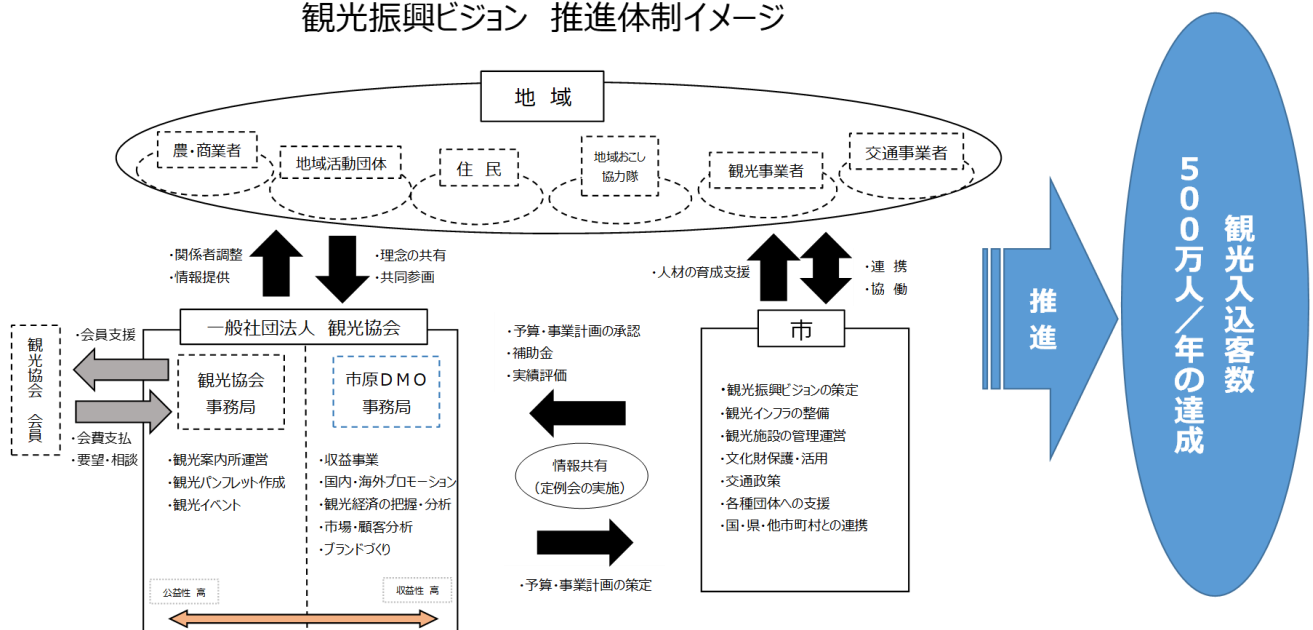


（超小型EVを活用したカーシェアリング）

第5章 観光振興ビジョンの推進体制

本市の目標である「観光入込客数 500 万人」を達成するため、地域の住民、地域活動団体、観光事業者、交通事業者、農・商業者や地域おこし協力隊といった多様な関係者が、市や観光協会とともに協働、連携して観光施策を推進します。

観光振興ビジョン 推進体制イメージ



指標について

目標値（観光入込客数 500 万人）のほか、本ビジョンの計画の推進や成果をより正確に把握するため、下記の評価項目も併用します。

【ビジョン全体の評価指標】

評価項目		現状（2021年）	目標（2026年）
観光入込客数	自然里山ツーリズム	103 万人	170 万人
	ゴルフツーリズム	168 万人	180 万人
	歴史文化ツーリズム	80 万人	150 万人
	合計	351 万人	500 万人
小湊鉄道観光利用客数		4.3 万人	8 万人

【戦略ごとの評価指標】 ※ゴルフ場利用者数及び市原湖畔美術館来館者数は年単位

戦略	評価項目	現状（2021年度）	目標（2026年度）
(1)	人流調査の結果を踏まえ、新たに民間事業者等と連携して事業を実施した数（累計）	0 件	5 件
(2)	ゴルフ場利用者数	168 万人	180 万人
	スポーツ合宿誘致数	8 件	10 件
	市原湖畔美術館来館者数	2.8 万人	3.2 万人
(3)	里山等での体験メニュー数	10 件	20 件
	観光業界に関する職場体験数	8 件	20 件
(4)	小湊鉄道及び養老渓谷の SNS 投稿数	35,978 件	40,000 件
	教育旅行誘致数（学校数）（累計）	0 校	10 校
(5)	自治体間連携により実施したイベント数（累計）	0 件	3 件
	超小型EVの利用者数	120 件	180 件

資料編

本市の観光資源

■観光資源の状況

広大な市域に養老溪谷をはじめとした豊かな自然、ゴルフ場、上総国分尼寺跡、市域を縦断する小湊鉄道、ANIMAL WONDER REZOURT、千葉こどもの国キッズダム、市原湖畔美術館等の観光資源が数多くあるほか、上総いちほら国府祭りのようなイベントや地域の伝統行事も四季折々に行われています。



上総いちほら国府祭り



上総国分尼寺復元回廊



市原湖畔美術館



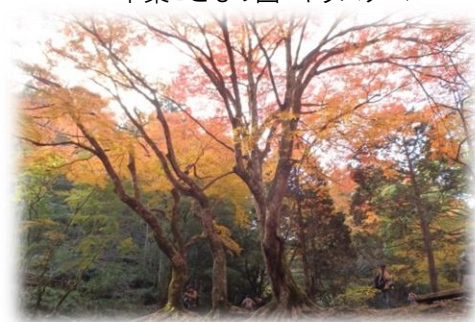
ANIMAL WONDER REZOURT



千葉こどもの国 キッズダム



ゴルフ場



養老溪谷(梅ヶ瀬溪谷)

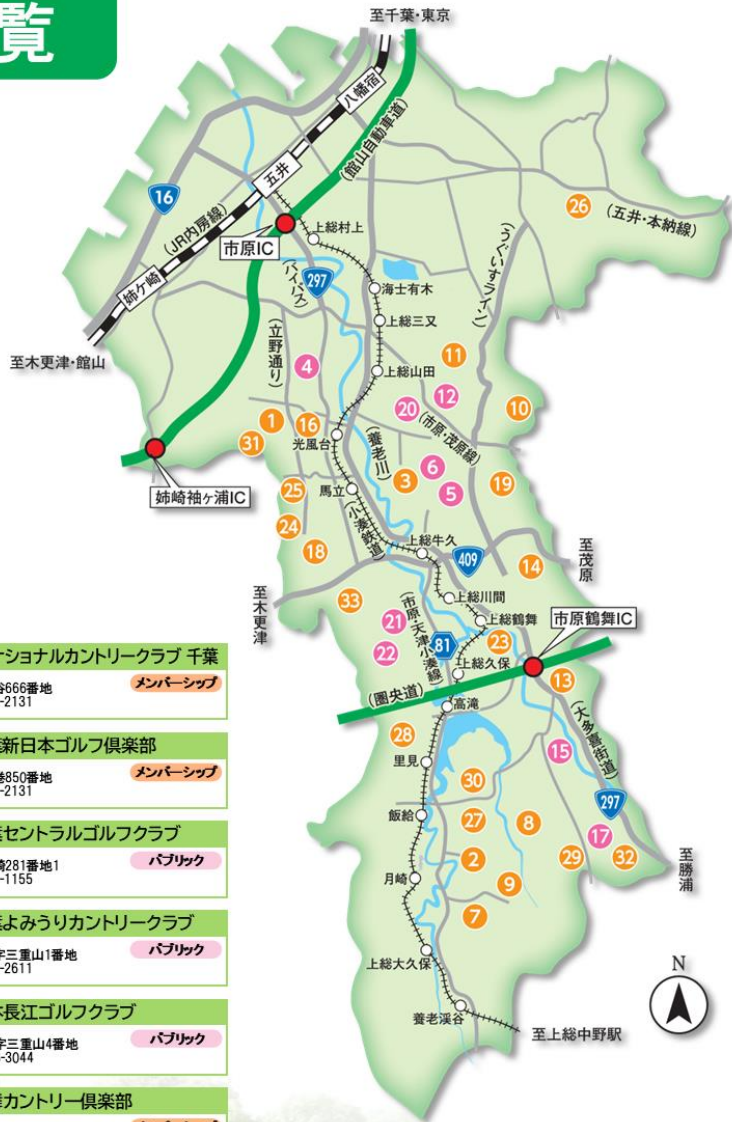


オリジナルメーカー海づり公園

◇ゴルフ場一覧

市原市の ゴルフ場一覧

- 1 姉ヶ崎カントリー倶楽部**
市原市立野165番地1
☎0436-66-1116 **メンバーシップ**
- 2 PGM南市原ゴルフクラブ**
市原市田淵1番地
☎0436-96-2031 **メンバーシップ**
- 3 市原京急カントリークラブ**
市原市馬立3022番地13
☎0436-36-6361 **メンバーシップ**
- 4 ムーンレイクゴルフクラブ 市原コース**
市原市新生603番地
☎0436-37-8855 **パブリック**
- 5 市原ゴルフクラブ 市原コース**
市原市奉免855番地
☎0436-92-1711 (予約センター) **パブリック**
- 6 市原ゴルフクラブ 柿の木台コース**
市原市牛久1293番地
☎0436-92-1711 (予約センター) **パブリック**
- 7 ゴルフ5カントリーオークビレッジ**
市原市国本767番地
☎0436-96-0300 **メンバーシップ**
- 8 かざさカントリークラブ**
市原市古敷谷975番地
☎0436-96-1212 **メンバーシップ**
- 9 加茂ゴルフ倶楽部**
市原市月出81番地
☎0436-96-1111 **メンバーシップ**
- 10 キングフィールズゴルフクラブ**
市原市新巻377番地
☎0436-36-6111 **メンバーシップ**
- 11 源氏山ゴルフクラブ**
市原市大橋宇白畑965番地1
☎0436-36-1525 **メンバーシップ**
- 12 CPGカントリークラブ**
市原市川在974番地
☎0436-36-1251 **パブリック**
- 13 大千葉カントリー倶楽部**
市原市平蔵3310番地
☎0436-89-2111 **メンバーシップ**
- 14 太平洋クラブ市原コース**
市原市奥野151番地
☎0436-88-3311 **メンバーシップ**
- 15 ベルセルバカントリークラブ 市原コース**
市原市平蔵2579番地1
☎0436-89-3303 **パブリック**
- 16 立野クラシックゴルフ倶楽部**
市原市中高根1166番地
☎0436-96-1111 **メンバーシップ**
- 17 ムーンレイクゴルフクラブ 鶴舞コース**
市原市立野小巻畑577番地
☎0436-89-2211 **パブリック**
- 18 ザナショナルカントリークラブ 千葉**
市原市寺谷666番地
☎0436-96-2131 **メンバーシップ**
- 19 千葉新日本ゴルフ倶楽部**
市原市新巻850番地
☎0436-36-2131 **メンバーシップ**
- 20 千葉セントラルゴルフクラブ**
市原市松崎281番地1
☎0436-36-1155 **パブリック**
- 21 千葉よみうりカントリークラブ**
市原市岩宇三重山1番地
☎0436-92-2611 **パブリック**
- 22 日本長江ゴルフクラブ**
市原市岩宇三重山4番地
☎0436-63-3044 **パブリック**
- 23 鶴舞カントリー倶楽部**
市原市田尾1293番地2
☎0436-88-2211 **メンバーシップ**
- 24 南総カントリークラブ**
市原市上高根1683番地1
☎0436-95-1816 **メンバーシップ**
- 25 ニュー南総ゴルフ倶楽部**
市原市上高根1616番地1
☎0436-95-1101 **メンバーシップ**
- 26 浜野ゴルフクラブ**
市原市永吉937番地
☎0436-59-3111 **メンバーシップ**
- 27 富士市原ゴルフクラブ**
市原市古敷谷権現代1685番地
☎0436-96-1211 **メンバーシップ**
- 28 ブリック&ウッドクラブ**
市原市山口
☎0436-98-1330 **メンバーシップ**
- 29 鳳琳カントリー倶楽部**
市原市小巻畑244番地
☎0436-89-2011 **メンバーシップ**
- 30 森永高滝カントリー倶楽部**
市原市古敷谷1919番地
☎0436-96-1266 **メンバーシップ**
- 31 ザ セイントナイン 東京**
市原市中高根1418番地
☎0436-96-5070 **メンバーシップ**
- 32 米原ゴルフ倶楽部**
市原市米原1639番地1
☎0436-89-2711 **メンバーシップ**
- 33 ロッテ皆吉台カントリー倶楽部**
市原市皆吉1627番地1
☎0436-92-3211 **メンバーシップ**





市原市観光振興ビジョン

《2022年度 改訂版》

2023年3月

発行 市原市
〒290-8501
千葉県市原市国分寺台中央1丁目1番地1
Tel. 0436-22-1111（代表）

編集 地方創生部 観光・国際交流課
